千手堂

千手堂は、千手観音の像が収められているため、その名が付けられている。 観音菩薩は、ボデサッタバの日本語で慈悲の仏像である。 観音菩薩には多くの姿があることが知られており、千手は 1 つの姿である。 このお堂は、極楽浄土が西方に位置するため、中禅寺湖西岸に建てられたと考えられる。

千手観音は輪王寺の三体の大仏様の一つであり、男体山を本地仏としていると言われている。日光の神社や寺院の創設者である勝道上人（735-817）は、千手観音と個人的なつながりを感じたと伝えられている。勝道上人は中禅寺湖上に観音様の姿をご覧になり、これが彼に中禅寺に千手の立木観音を彫るように促したという。

このお堂はもともと 784 年に建てられたもので、長年にわたって定期的に再建されてきた。 しかし、ここには寺院の構造がなかった時代もあった。 1965 年から現在の構造物が 2016 年に建設されるまで、ここには基礎石台しかなかった。この寺院は、元の日光山の複合施設の創立 1250 周年と勝道上人の死後 1200 年を記念して、2016 年に再建された。